

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和3年10月20日(水) 18時00分～20時00分				
開催場所		相模原市役所 会議室棟 第1会議室 WEB参加委員あり				
出席者	委員	13人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	10人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外8人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 第4回推進会議の振り返りについて (2) 導入する機能について(土地利用方針たたき台) (3) その他 3 閉会				

# 議 事 の 要 旨

## 1 開会

## 2 議題

### ( 1 ) 第 4 回 推 進 会 議 の 振 り 返 り に つ い て

事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

### ( 2 ) 導 入 す る 機 能 に つ い て ( 土 地 利 用 方 針 た た き 台 )

事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

( 高 橋 委 員 ) 市 民 が、 ど こ か で 作 ら れ た 技 術 を 受 け 取 る、 便 利 な 機 能 を 体 感 で き る だ け の 場 所 に な っ て い る 印 象 を 受 け た。 例 え ば、 パ ブ リ ッ ク ア ー ト を 置 い て、 創 造 性 が 高 ま る よ う な 居 住 環 境 を 作 る 等、 市 民 が イ ノ ベ ー テ ィ ブ に な る 要 素 が 入 る と よ い。 学 び や 知 的 等 の キ ー ワ ー ド を 入 れ、 住 民 も 来 訪 者 も 知 的 空 間 で あ る こ と を 感 じ 取 り、 自 分 自 身 が イ ノ ベ ー テ ィ ブ に な れ る 空 間 に な る と よ い。

( 細 谷 委 員 ) 市 民 が イ ノ ベ ー シ ョ ン を 望 ん で い る の か と い う 疑 問 が あ る。 過 去 に 行 わ れ た ア ン ケ ー ト 調 査 の 結 果 で は、 現 在 の 生 活 に 対 す る 満 足 度 は 一 定 数 あ っ た た め、 今 の 生 活 に な い 新 た な 価 値 観 に 関 連 す る も の を 入 れ て は ど う か。 例 え ば、 芸 術 や ア ー ト、 音 楽、 演 劇 等、 非 日 常 を 感 じ ら れ る も の が よ い の で は な い か。 市 民 と 一 緒 に 作 り 上 げ て い け る も の が あ る と よ い。

( 高 橋 委 員 ) 業 務 開 発 共 創 機 能 は、 ど こ ま で オ ー プ ン な 空 間 に で き る か が 重 要 で あ る と 考 え る。

( 森 委 員 ) 商 業 機 能 に つ い て、 最 先 端 技 術 の 活 用 や ワ ク ワ ク で き る 体 験 は 魅 力 的 で あ る。 こ れ か ら 相 模 原 を 盛 り 上 げ て い く で あ ろ う、 子 ども た ち が 体 験 で き る よ う な 技 術 が あ る と よ い。 ま た、 相 模 原 市 は S D G s 未 来 都 市 で あ る た め、 更 に ア ピ ー ル で き る と よ い。

( 小 林 委 員 ) 高 齢 者 や 障 害 を 持 っ て い る 方 等、 誰 も が 行 き や す く、 イ ノ ベ ー シ ョ ン に 慣 れ る こ と が で き る 空 間 に な る と よ い。 10 年 後 に は 今 よ り 最 先 端 技 術 が 浸 透 し、 慣 れ る と い う 感 覚 も 変 わ っ て い る か も し れ な い が、 イ ノ ベ ー シ ョ ン に 親 し み の な い 人 が 行 き づ ら い 場 所 に な っ て し ま う と も っ た い な い。

( 川 口 委 員 ) 前 回 の 会 議 で 「 何 の 意 味 付 け も し て い な い 場 所 」 と い う 意 見 が あ り、 大 事 な こ と だ と 思 っ た。 導 入 機 能 が 多 岐 に わ た っ て お り、 何 の 意 味 付 け も し て い な い 場 所 を 残 す こ と が 難 し い よ う に 感 じ た が、 残 し て ほ し い。

( 赤 瀬 委 員 ) 相 模 原 市 民 の た め の ま ち づ く り と 聞 こ え る。 米 軍 か ら 返 還 さ れ た 土 地 と い う 経 緯 を 踏 ま え る と、 日 本 全 体 の 象 徴 的 な 場 所 に 仕 立 て る べ き で は な い か と 思 う。 日 本 中 で 見 た 時 に、 他 の 地 域 と 異 な る 特 徴 が あ り、 ワ ク ワ ク ・ ド キ ド キ で き る 場 所 に な る と よ い。 例 え ば、 教 育 と い う 視 点 で 考 え る と、 国 際 的 な 内

容やアート等の文化的なものも含め、世界中の知的な部分があると、相模原市のみでなく日本の財産になる。一言で「こんなまち」といえるコンセプトがあるとよい。

(池田委員) 市民アンケートや企業アンケートの結果が反映されているということが分かるように土地利用方針をまとめてほしい。交流やにぎわいは、相模原に人を集めるという点で重要な要素であるため、取り入れてほしい。また、相模原地域と橋本地域で相乗効果を生み出し、魅力のあるまちになるとよい。

(安藤(孝)委員) 広域交流拠点基本計画では相模原駅周辺、橋本駅周辺とも、まちづくりのコンセプトが掲げられている。それぞれの特性を生かしたまちづくりを進められるとよい。相模原地区は、低炭素社会や情報発信などに配慮した国際的な都市になってほしい。

(中島委員) 最先端技術を活用して、障害を持っている方や病気になった方も安心して子育てをできるような環境になるとよい。

(大沢委員) 各機能をつなぐ道路ネットワークが重要である。公共の道路あるいは民間の通路など、位置付けによっても考え方は異なるが、それぞれの機能を結ぶ軸をどのように配置するかを検討する必要がある。

(事務局) 土地利用方針としては、機能の配置や機能連携について整理する。土地利用方針を実現していく上で、各機能をつなぐ道路は重要となるため、今後の都市基盤の検討において整理する。

(赤瀬委員) ゾーニングについては、立体的な構成が見えないと分かりづらい。例えば、業務機能は上層階に配置し、下層階は民間施設(商業機能)を入れることも考えられる。また、駅前広場についても空間の使い方をあわせて検討すべきである。

(事務局) ゾーニングを立体的に考えることは現段階では難しいため、平面で複数案お示ししている。また、駅前広場をどのような空間にするかについては、次年度以降の検討になるが、駅前広場は、単に交通機能を配置するのみではなく、みどりあふれる空間やオープンスペースを配置することも重要である。孤立した空間でなく、全体の考え方と整合させて、今後考えていく。

(安藤(孝)委員) 本地区のまちづくりを展開するためには、道路網の整備は必要不可欠である。

(大沢委員) ハザードマップ等を見る限り、本地区は比較的災害リスクが小さい。土地利用方針では、災害リスクを整理した上で、防災機能について表記すると説得力が高まる。

(小林委員) 業務開発共創機能は、市民や子どもたちも関わりやすいようなオープンなもので、市民との交流につながるとよい。

(高橋委員) ゾーニング案として3つの案が示されているが、3案の交流にぎわい

機能と住居生活機能を逆にした案がよいのではないかと考える。

(川口委員) 駅前には病院があるため、施設を検討する際は配慮することも必要である。具体的な施設の検討によってゾーニングが変わる可能性もあると考えている。

(大沢委員) 小田急多摩線の延伸は考慮しなくてよいか。

(事務局) 小田急多摩線の延伸は、乗り換え動線や利便性の面で土地利用方針と関連するため追記する。

(高橋委員) イノベーションというキーワードを景観形成や雰囲気づくりの要素に入れられるとよい。本日の議論を踏まえると、にぎわいよりも、知的や学びという要素の方がよいと思う。

(布施委員) 将来的な相模総合補給廠の全面返還に向け、今回の 15ha のまちづくりが重要である。また、橋本駅周辺地区との機能分担については、広域交流拠点がキーワードになると考える。相模原駅周辺と橋本駅周辺は広域交流拠点としては一つであり、その中での機能分担として考えた方がよい。

(大沢委員) 多くの委員から、導入機能が多いのではないかと意見が出ている。今は、門を広くしておくべき段階かもしれないが、具体的な施設を検討する段階では、まちづくりのコンセプトを一言で示せるような特徴付けが必要と考える。また、基盤整備が重要であり、上下水道のあり方や、開発調整池の位置等も検討する必要がある。立体利用しながら施設の中に配置するなど、空間を上手く使えるとよい。

(佐藤会長) まちづくりコンセプトである、ライフ×イノベーションの具体的なイメージを文章に示す必要がある。イノベーションのベースとして「つながり」を可能とする技術という観点で体系的に書き込めるとよい。特に、つながりの観点からは、今の技術を踏まえると 5G や DX は外せないキーワードである。これらを担う企業や団体を想定してイメージを書き込むことが大事である。例えば、居住機能としては、ドローンやスローモビリティもあれば、遠隔医療や子育て Tech 等のキーワードが入るとイメージしやすい。商業施設であれば、無人店舗やオンライン店舗のほか、リアルとバーチャルのイベント開催のような技術を引き込めると全体としてイメージがしやすくなる。業務開発共創機能については、オープンオフィスの考え方が重要だと感じた。インキュベーションのような機能が必要である。交流にぎわい機能については、オンラインとリアルのハイブリッドのイベント開催がニューノーマルとして定着してくると思うが、まちが人を育てるイベントという側面もあると、イノベティブなまちという印象を与えられるのではないかと。交流ハブ機能については、今後の展開を考えると、エリアマネジメントと都市 OS を合わせて検討できるとよい。機能×イノベーションのイメージに、つながりの技術を整理し、体系的に書き込む

と総花的な印象ではなくなると思う。また、橋本地区との連携や小田急多摩線の延伸についての話も出ていたように、拠点のみではなく、周辺地域との連携について、より書き込めるとよい。イノベーションの視点でも、本地区が技術のショーケースになり、技術を体験し、周辺にはその技術を活用している場所があると行きやすい場所になるのではないか。そのような意味を持たせると、ハブという言葉がより明確になると思う。さらに、橋本地域の産業と連携がとれる考え方があるとよい。地域の価値の向上が重要な課題となる。ショーケースを中心に、全体としてイノベティブな地域になるというシナリオは、相模総合補給廠の全面返還を踏まえたまちづくりにも相当する。また、ライフ×イノベーションというコンセプトなので、生活の軸とイノベーションの軸が見えるようにし、それが周辺とつながっているような絵があるとよいと思った。ゾーニングに関しては、つながり技術の活用イメージを文章で書き込めるとよい。都市基盤については、利便性向上や地域の付加価値、イノベティブな生活の実現という視点で大事であるが、都市OSの技術が重要である。都市OSはスーパーシティやスマートシティでも議論されており、これらの技術が融合し、イノベーションを先導するという意味でも重要と考える。その応用例として、防災についても扱えるのではないか。都市基盤の中に都市OSについても書き込んでほしい。将来的な全面返還や国有地であったという特性、官民連携、土地利用計画の実現、橋本駅周辺との機能分担等の視点なども重要であるが、周辺とのつながりを意識した計画になっているということを強調したい。

### (3) その他

今後のスケジュール等について確認した。

## 3 閉会

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		欠席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	布施 昭愛	相模原商工会議所 事務局長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 アカデミー渉外委員会		出席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	牧野 英太郎	株式会社 J T B 相模原支店長		欠席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席